令和6年度　自己評価・学校関係者評価報告書

令和7年3月31日
学校法人　調布学園
調布幼稚園

1．本園の教育目標
　生きる力をはぐくむ
　　・健康な体　・豊かな心　・人とかかわる力　・やり遂げる力　・適応する力

2．本年度重点的に取り組む目標・計画
　1）教育目標の実現に向けて、子どもたちが主体的に活動したり、工夫したりすることができる環境を整え、幼児期にふさわしい体験が得られるようにしていく。
　2）学園内の他部門（中等部高等部、大学）と連携し、幼児教育の充実に努める。
　3）正課における体操や英語、プログラミングの講師と連携を図り、幼児の理解が深まるように努める。
　4）教員の資質向上を図り、質の高い教育の実践を目指す。

3．評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育目標の実現に向けて、子どもたちが主体的に活動したり、工夫したりすることができる環境を整え、幼児期にふさわしい体験が得られるようにしていく。	A	・園内の畑や水田では、子どもたちが自分で土づくり、畝づくりをするところから取り組み、水やりをしたり、日々の様子を観察したりしながら作物が育つ様子を見守ってきた。その中で、畑の中にいる虫に気が付いて捕まえたり、畑の周りにある草花を手に取ってみたりなど、実際に自分の目で見たり触れたりする経験をすることができた。 ・大きな行事では学年の発達に合わせ、子どもたちの力が発揮できる題材を取り入れ、個や学年で力を合わせやり遂げた。また、運動会や劇などに必要なものを用意するときには、各学年子どもたちの考えも取り入れ工夫して作製した。 ・遊びの中では自分たちで身近にある素材を選んで使い自分たちで遊びを作り出すことができるように、保護者には時期を逃さないように廃材の回収に協力頂くこともできた。 ・教員間では、教師主導にならないように常に打ち合わせ、子どもたちの気付きやイメージが実現できるようにしてきた。

2	学園内の他部門（中等部高等部、大学）と連携し、幼児教育の充実に努める。	A	・併設の田園調布学園中等部高等部からは生徒からの働きかけによる交流や授業の一環による交流をもつこができた。 ・併設の田園調布学園大学からは先生方を講師として招き、幼児教育に関連する内容で講演会を保護者対象の講演会を開催することができた。 ・本園の教員も、他部門に赴き互いの活動の様子を直接見たりする機会を設けた。 ・プログラミングの講師として、併設の田園調布学園中等部高等部の教員を講師として招き、定期的に園児へのプログラミングの実施を図ることができ、幼児期の思考力の育成や情報教育の在り方について、今後の大きな期待に繋がった。
3	正課における体操や英語、プログラミングの講師と連携を図り、幼児の理解が深まるように努める。	A	・英語や体操、プログラミングの講師とは活動の前後に打ち合わせや振り返りを行い、幼児自ら気付いたり考えたりできる援助の在り方を考える機会になった。
4	教員の資質向上を図り、質の高い教育の実践を目指す	A	・長期休業中には外部研修に参加を推奨し、実践した。 ・園内では写真を利用した幼児の姿の読み取りなどについて研究会開き研鑽に努めた ・近隣小学校とも連携を図り情報共有などにも努めた。

評価（A・・・十分に成果があった　B・・・成果があった　　C・・・少し成果があった　　D・・・成果がなかった）

5. 総合的な評価結果

評価	理由
A	今年度は、本学全体の方針もあり、互いの部門同士の連携も積極的に図り、たくさんの活動を進めることができた。中でも中等部高等部とは場所が近いこともあり、生徒と園児の交流が図れたことは良かった。 昨年から取り組んでいるプログラミングの活動は2年目を迎え、対象である年中組と年長組の活動を一通り行うことができた。今後に向けて、具体的な見通しやカリキュラム作りなどに繋げていけるようにしていく。 昨年度に今後の課題としていた本格的な行事や活動の見直しについては、コロナ前に実施していたことと、コロナ禍に実施していたことを上手く取り込んで計画を立て、ほぼコロナ前と同様に活動を行えた。今後も感染症対策には引き続き取り組み安心安全な幼稚園を目指していく。また、同時に幼児の実態に合わせた活動の工夫も大切にしていく。 大学の先生方の講演内容や他部門の見学は教員の学びにも繋がった。園内での取り組みとしての園内研究や研修会も引き続き実施するとともに、自分たちで外部研修に赴くなど自己研鑽の機会を逃さないようにしていく。

評価（A・・・十分に成果があった　B・・・成果があった　　C・・・少し成果があった　　D・・・成果がなかった

6．今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	今までの在り方に捕らわれない保育の工夫	前年度の活動に捕らわれず、幼児の実態に合わせた取り組みの計画、実施を行う。
2	入園募集に関する取り組みの工夫	教育方針に基づいた教育内容のアピール方法の工夫に取り組む。また、保護者のニーズにあった活動の展開や実施方法を考える。

7．学校関係者評価委員会の評価

〇3年前、入園するときに畑の存在、園児数の多さ、主体的な活動を取り入れている保育内容に心惹かれて入園を決めた。実際に子どもが失敗しても怒られない、できないから駄目だと言われない教師の接し方のおかげで、失敗の中から学ぶ姿が伺える。また、成果よりも過程が大事であることを子ども自身も理解している。

〇プログラミングは課外活動でも行って欲しい。

〇自分で決める機会を与えてくれる活動が多い。選んだ理由を自分で嬉しそうに自慢しながら説明してくれる。

〇家で園の様子はあまり話さないが、参観日で様子を見る限り、友達の様子をよく見ていたり、自発的に応援したりする姿から豊かな心や人とかかわる力が育っていると感じた。

〇友達同士の遊びの中で、友達が「それはよくないよ」と教えてくれたことがあったが、それが嬉しかった。また、それを受け入れられた我が子にも成長を感じた。心が育っていることを実感できる。

〇園児数が多いため、友達との距離感の取り方については非常に勉強になり、上の子は小学校生活でも活かされていると思う。

〇収穫した野菜を調理したり、友達と一緒に食べたりする活動が良い。

〇卒業生の保護者と話す機会があったが、皆さん調布幼稚園の良かったことをたくさん話してくれる。また、卒業したことを誇りに思っている方が多いことも入園を決めるきっかけになった。

〇社会に出るとコミュニケーション力が乏しく、仕事に影響することや自分の意見がつぶされると立ち上がれないことがある。クラスに関係なく、大勢の友達と遊んだり、生活したりしながらコミュニケーションをとったり、壁にぶつかったりしながら過ごせることが良い。